



和だより

弟子屈町立和琴小学校

10月28日 発行者 校長 渥美清孝

～学校と家庭と地域で子育てする和琴小～

■学校教育目標

よく考え正しく判断できる子 (知)

強い心と体でやり抜く子 (体)

優しい心で助け合う子 (徳)



甘えさせる・甘やかす

校長 渥美清孝

白鳥の鳴き声に厳しくも美しい冬の季節を感じるようになりました。屈斜路は間もなく氷と雪の世界に染まっています。

さて、教育の大きな目標のひとつに自立があります。将来、子どもたちが自分の力で生きていけるようになることを願って教育は行われているのです。

しかし、このことは簡単に実現できるものではなく、大人(親)として子どもの自立のためにどう関わるべきか悩むことは少なくないのではないのでしょうか。

この悩みに関わって、一般的に次のように言われることが多いようです。

「子どもができないことを大人(親)が手伝ったり、代わりにやってあげたりすると、子どもの自立を妨げる。」この考え方は正しいのでしょうか。

お茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生の研究を紹介します。

内田先生はある幼稚園の年少の2クラスを1年間研究観察しました。1組の先生は、子どもがボタンをはめられないときははめてあげ、靴下を履けないときは履かせてあげるなど、何でも優しく手伝ってあげる先生です。2組の先生は、困っている子がいても「幼稚園生なのだから、自分のことは自分でやりましょう」と言うだけで、決して手伝ってあげたりやってあげたりはしない先生です。2つのクラスの子どもたちは、最初は同じ程度の自立度合いだったのですが、1年経つと、はっきりした違いが出ました。

1組の子どもたちの方が、自立度合いが上がって自分で着替えたり靴下が履けたりできるようになったのです。反対に、2組の子どもたちには、1年経っても「自分から着替えよう」という自立的な行動はあまり見られなかったのです。

1組では困った時の先生の助けによって、先生に対する信頼感が高まり、関係がよくなりました。助けてもらうことにより自分が先生から認められていると考えるようになり、大切にされているという実感をもつようになりました。この経験が自己肯定感につながり、挑戦してみたいという意欲を育てたのでしょうか。

よりよい人間関係と自己肯定感は、間違いなく将来の自立につながります。

また、困っている時に助けてもらう経験は、自分も誰かを助けたいという気持ちを育てます。逆に「やってあげると自立を妨げる」と教わってしまった人は友達を助けることをしない方がよいと考えてしまうかも知れません。

確かに、できることを先回りして大人が何でもやってしまうことは、甘やかすことであり、自立を妨げてしまうかも知れません。しかし、できないことを大人がやってあげることは、甘えさせることであり、自己肯定感を高め、自立を助けるのです。

このことを知り、子どもとの関わりを今一度見直してみる必要性を強く感じました。

< 11月の行事 > 下校時刻は、前半が5時間・後半が6時間

日	曜	行 事	下校時刻	給食
1	火	安全点検日 ALT 学習発表会後片付け	14:00	○
2	水	読み聞かせ	14:00 14:55	○
3	木	文化の日		
4	金	児童委員会	14:00 15:15	○
5	土	週休日		
6	日	週休日		
7	月	校外学習 (3年)	14:00 14:55	○
8	火	ALT	14:00 14:55	○
9	水	全校集会 校外学習 (3年)	14:00	○
10	木		14:00 14:55	○
11	金	ALT	14:00 14:55	○
12	土	週休日 ニューススポーツ交流会		
13	日	週休日 釧P連研究大会		
14	月		14:00 14:55	○
15	火	公開研究会 ALT	12:40 13:50	○
16	水		14:00 14:55	○
17	木	図書館バス 弟中わくわく登校デー	14:00 14:55	○
18	金		14:00 14:55	○
19	土	週休日		
20	日	週休日 町P連研究大会		
21	月		14:00 14:55	○
22	火		14:00 14:55	○
23	水	勤労感謝の日		
24	木		14:00 14:55	○
25	金	ALT	14:00 14:55	○
26	土	週休日 PTA親子レク		
27	日	週休日		
28	月		14:00 14:55	○
29	火	ALT 午前授業	12:45	○
30	水	読み聞かせ	14:00	○

和琴小学校ホームページ

学校の様子や地域の問題を配信しています。ぜひご覧ください。

<http://163.44.3.160/app-def/S-102/washou/>



10月の和っ子

■収穫祭

9月29日(木)に収穫祭を行いました。中高学年は、農園で育てた野菜を材料に作りたい料理を決め、作り方を調べて準備を進めてきました。当日作った料理は「ジャガイモと人参のガレット」と「カボチャの甘辛焼き」でした。



また、低学年は「粉ふきいも」を作りました。好きな大きさのジャガイモを選び、自分で皮をむいて、担任の先生に茹でてもらっていました。



今年も無事、農園活動を終えることができました。ご協力いただいた保護者・地域の皆様、本当にありがとうございました。

■ぶどうの収穫体験

10月13日(木)には、地域のぶどう畑に行き、収穫作業に参加してきました。作業は、ぶどうの房をはさみで切ってコンテナに入れ、コンテナがいっぱいになったら空のコンテナと交換・・・というものでした。みんなの頑張りで、あっという間に、10箱以上のコンテナが、ぶどうでいっぱいになりました。



秋晴れの下、心地よい汗をかけたひとときでした。

■地域文化体験～親子小物作り教室～



10月15日(土)に地域文化体験として親子小物作り教室を行いました。講師の先生は、SOMOKUYA(そもくや)の土田 春恵さんです。土田さんは、子どもたち一人一人に対して優しく、いねいに教えてくださいました。子どもたちは、

保護者の方や先生方と一緒に、最後の最後まで作品作りに楽しく、粘り強く取り組んでいました。土田さんの温かい人柄を感じながら、手作りの作品作りに打ち込めた楽しい時間になりました。

■教育実習

10月17日(月)からの2週間、高学年には金子 朋世 先生、低学年には宮下 楓 先生が入り、子ども達との関係づくりや授業の計画など、様々な事を学びました。27日(木)に行われた実習期間の集大成としての研究授業には、大学の先生や本校の職員も参加し、授業参観や意見交流を通して、大いに学び合うことができました。



子ども達にとっても貴重な機会で、自分たちと年齢の近い大学生との出会いと交流は、大きな刺激となったことでしょう。別れは寂しいものですが、どこかで再会した時に、成長した自分を見せられるように、子ども達にも教育実習生にも、これからの日々を大切に過ごしてほしいと思います。



第2回学校運営協議会

<学校運営協議会とは？>

学校と地域をつなぎ、子ども達の教育環境を充実させ、それを地域の活性化にもつなげることを目的に、地域と学校の中心となって計画・検討を行う組織です。



10月12日(水)に今年2回目の協議会が行われました。学校からは前期の教育活動の様子や学校評価について説明し、出席者からたくさんの貴重なご意見をいただきました。

本協議会を通して、保護者の方や地域の方が子どもたちをあたたく見守ってくださっていることを強く感じました。いただいたご意見をもとにして、学校活動を見つめ直し、より良い学校作りにつなげていきたいと思っています。